

Ideas worth spreading.

Join us.



さあ、価値あるアイデアを広めよう。

TED^xKobe
x=independently organized TED event

<http://tedxkobe.com> twitter.com/TEDxKobe facebook.com/TEDxKobe

APRIL 2016

JOIN+PRESS

for

SPEAKER

+

PARTNER

+

STAFF

+

PARTICIPANT



TED^xKobe
x=independently organized TED event

TED って? TEDxって?

そして、TEDxKobeってなんだろう?

ほんの少しでも興味を持って、

このブックレットを手にとってくれた方へ。

私たちTEDxKobeが考えている未来、

その想いに共感し、TEDxKobeをかたちづくっている人々のこと、

そしてここで得られるかけがえない体験のことを伝えたくて、

このブックレットを作りました。

TEDxトークの主演として登壇するスピーカーとして。

イベントに参加し、共に場を盛り上げるパティシパントとして。

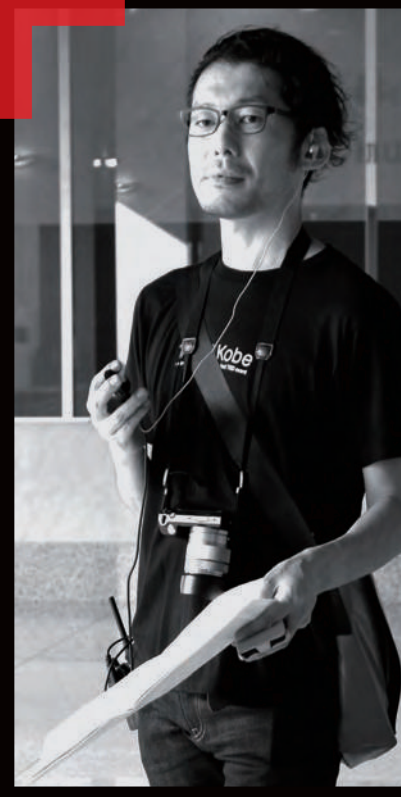
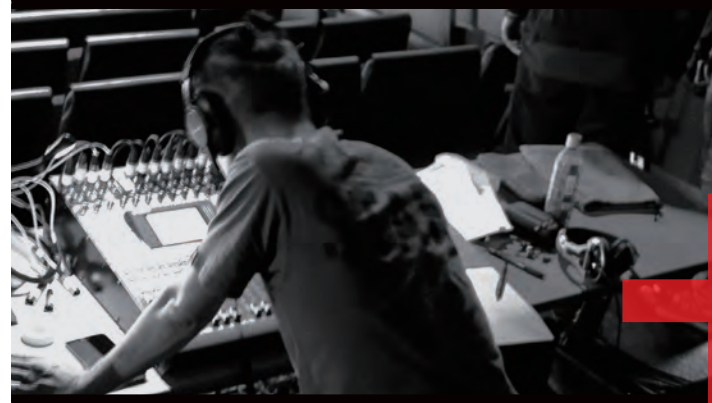
イベントとコミュニティをそれぞれの強みで支えるパートナーとして。

そして、この舞台の実現に向けて奮闘するスタッフとして。

あなたが JOINしてみたい姿がここで見つかったなら、

私たちは全力で歓迎します。

TEDxKobe
x = independently organized TED event



I N D E X

- 06 TEDとは／TEDxとは
- 07 オーガナイザーインタビュー
- 10 TEDxKobeこれまでの活動 2014-2016
- 12 イベントアクティビティ紹介
- 14 スピーカーインタビュー 田村 亜紀子
- 16 池嶋 亮
- 18 岸田 ひろ実
- 20 パートナーインタビュー (株)神戸デジタル・ラボ
- 22 (株)ランゲージ・リソースズ
- 24 パティシパントの声
- 26 TEDxKobe スタッフ紹介
- 28 地域を越えたTEDxコミュニティの交流





TEDとは

TEDとは、1984年から行われている「価値あるアイデアを広めよう (Ideas worth spreading)」を理念とするTED Conferenceを主催する非営利団体です。TEDでは、技術・エンターテインメント・デザインなど様々な分野の人物が18分以内でプレゼンテーションを行います。またそのプレゼンテーションはTED.comを通じて全世界に配信されます。

What is TED?

TED is a nonprofit devoted to spreading ideas, usually in the form of short, powerful talks (18 minutes or less). TED began in 1984 as a conference where Technology, Entertainment and Design converged, and today covers almost all topics — from science to business to global issues — in more than 100 languages. Meanwhile, independently run TEDx events help share ideas in communities around the world.
TED <http://www.ted.com>

TEDxとは

TEDx (テデックス)とは、TEDから正式にライセンスを受け、TED同様の体験を共有することを目的として世界各地で独自に運営されているプログラムです。「x」は独自に運営されていることを意味し、TEDの定めた運用ルールに沿いながら、各地方の独自色を出して運営されています。

2009年の開始以来、今日までに全世界170カ国以上で通算15,000回以上ものTEDxイベントが実施されています。

What is TEDx?

In the spirit of ideas worth spreading, TEDx is a program of local, self-organized events that bring people together to share a TED-like experience. At a TEDx event, TED Talks video and live speakers combine to spark deep discussion and connection. These local, self-organized events are branded TEDx, where x = independently organized TED event. The TED Conference provides general guidance for the TEDx program, but individual TEDx events are self-organized. (Subject to certain rules and regulations.)

オーガナイザーインタビュー

TEDxKobe ができてから。 そして、この先に目指すところ

TEDxKobe
Organizer

舟橋 健雄

TEDxKobe
Co-Organizer

鈴木 敏郎



FUNAHASHI
Takeo

SUZUKI
Toshio

「神戸というこの地でTEDxをやりたい!」と、TEDxKobeを立ち上げたオーガナイザーの舟橋健雄とコ・オーガナイザーの鈴木敏郎。2013年にTEDxSannomiyaとしてライセンスを取得してからここに至るまで、彼らにも様々な出会いや発見がありました。二人が考えるTEDxKobeの「これまで」と「これから」について、話を聞きました。

—— まず、オーガナイザーである舟橋さんがTEDxKobeを始めようと思ったきっかけは何だったんでしょうか?

舟橋 実は、私がTEDxKobeを始めようと思った最初のきっかけは、「神戸でTEDxをやりたい」という方に声をかけていただいたことでした。それまでは、NHKの「スーパープレゼンテーション」や、YouTube上でTED動画は見ていましたが、自分たちの地域でTEDxとして開催できるということを知りませんでした。しかし、以前から「神戸ITフェスティバル」というITイベントを主催し「神戸の人を

繋ぐ」ことを目指していたこともあり、TEDxKobeを開催できれば、ITフェスとはまた違った形—「アイデア」を媒介とする形—で「神戸の人を繋ぐ」ことができるのではと大きな可能性を感じました。

—— 「神戸の人を繋ぐ」ための媒介、場としての魅力を感じ取ったんですね。そこから実際の活動を進めていく中で、その直感は強固なものになっていったのでしょうか。

舟橋 はい。その後、TEDxライセンス申請を通してTED本部ともやり取りをする中で魅力を実感し、ますますTED/TEDxの世界へのめりこんでいきました。最終的に、自分自身がオーガナイザーとしてTEDxのライセンスを取得できた時は、新たな世界が開けたような嬉しい気持ちと、価値あるアイデアを自分たちの手で世界に広げていく責任感の大きさに身震いするような思いが同居した感覚になったことを覚えています。



—— 実際に準備を始めてから、何か苦労はありましたか？

鈴木 TEDxは、我々スタッフをはじめとして、イベントに登壇いただくスピーカーも全てボランティア。パートナーと呼ばれる協賛企業様のサポートとあわせて成り立っています。もちろん、イベントを構成する重要な役割であるパティシパント(参加者)を募集する際にも、TEDxの魅力をしっかり伝えなければ実現できません。既にTEDにはそこそこ詳しくなっているつもりだったのですが、あらためてTEDが掲げるミッション「広めるべき価値あるアイデア」が何なのか？を説明しようとして愕然としました。「アイデア」という単純な言葉の意味さえ、うまく伝えることができなかったんです。

舟橋 そう、最初は本当に難しさを感じました。2013年にTEDxSannomiyaとしてライセンスを取得し、2014年3月9日に初めてのTEDxイベントを開催しました。活動を始めて最初に感じたことは、「今までに取り組んだどんなイベントよりもオーガナイズが難しい」というものでした。イベント規模としては、初回は100名までという制限があったのでそこまで難しいものではなかったのですが、いかにして参加いただくみなさんにTEDクオリティの体験をしていただくのかということを考えると、本当に細部まで配慮したイベント設計をしないとイケませんでした。しかし、TEDxイベントを開催してわかった

のは、「今までに取り組んだどんなイベントよりもスピーカーや参加者との関係が近い」ということ。それだけ一人ひとりの人間に深く関わることができるという醍醐味がTEDxにはあると思います。

—— TEDが掲げるミッション「価値あるアイデアを広げる」の意味、パティシパントに届けたい体験のクオリティを真剣に考えれば考えるほど、その難しさに直面したんですね。その壁を乗り越え、TEDxKobeとしての活動を重ねる中で、今はどのようなことを感じているのでしょうか。

舟橋 TEDxSannomiyaを無事に開催できた翌年はTEDxKobeとしてライセンスを更新でき、2015年5月24日にTEDxKobe 2015を無事に開催することができました。この時に強く実感したのは、今の神戸に必要なのは、本当に多様な人々が「アイデア」のもとで互いに知り合い、理解し合い、繋がりが合う機会だということでした。そして、その機会をTEDxKobeが提供し続けていけるのであれば、存在価値はあるはずだし、実際にTEDxKobeを開催し続けることで、真に多様性のある地域にしていけることが自分自身の使命なのではないかと感じています。

鈴木 スタートから3年。TEDxKobeはスタッフと知恵を絞り、ス

ピーカーと議論し、パートナーと協力し合いながら、世界最高峰で最大の知縁コミュニティとも言える、TEDxに向かい合っています。好奇心をそそり、新鮮な視点を与え、聞いて「ふうん」で終わらない強烈なインパクトを持つプレゼンテーションと、そこから波紋が広がるように、さらなる議論が沸き起こる環境づくり。それらを実現するにはどうすればよいのかという、一人では途方も無く感じた疑問にも、仲間と挑むことができるようになりました。イベント当日、全ての参加者との交流では、我々がただのプレゼンテーションイベントの運営ではなく、「アイデアで神戸の街を繋げる」という理念を目指していることを体感いただけるはずです。

—— 最後に、TEDxKobeの原点である二人が描く「TEDxKobeの未来」、みんなで作っていききたい“ありたい姿”とは、どのようなものなのでしょうか。

舟橋 「TEDx」というのは、2009年に始まった新たな試みです。今や、世界170カ国以上、通算15,000回以上も開催されていますが、TEDxKobeもその中で他のTEDxにも良い影響を与えられる存在でありたいと思っていますし、1993年にTED本体が“TED4KOBE”を開催した地として、誇りを持って今後も着実に活動をしていきたい

と強く願っています。そして、神戸の人々が価値あるアイデアを発信・共有できる場として、市民権を得ていければと思います。

鈴木 TEDxKobeは今後も議論を交わし、創造力を働かせながら前に進み続けます。違いを受け入れ、共に未来を目指す文化が、街の可能性を広げる土壌になると確信しています。日本中、世界中に広がるTEDxコミュニティから感じる熱気と高揚感の中でもひとときわ輝く、神戸独自の「アイデア」を、今このブックレットをご覧になっている方とも、是非一緒に育んでいきたいと願っています。

TEDxKobe これまでの活動 2014-2016

TEDxSannomiya “ideaport” 2014.3.9

会場 DESIGN AND CREATIVE CENTER KOBE (KIITO)

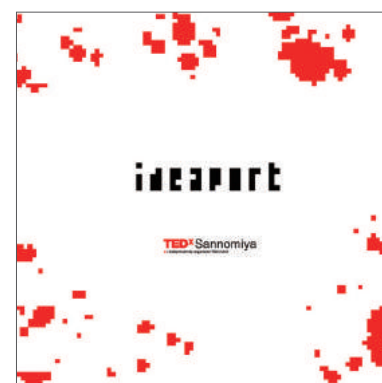
スピーカー



伏見 愛佳 田村 亜紀子 丸々亭 おはぎ 蜜-BANG- 伴 年晶



山下 春幸 生田神社 マリヨ 光冒 三好 建正



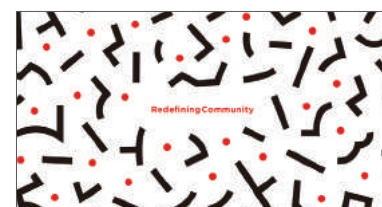
TEDxKobeSalon “Redefining Community” 2014.8.17

会場 神戸ポートピアホテル キーノート

スピーカー



青木 竜太



TEDxKobeLive

Live from TEDGlobal 2014 “South!” 2014.10.8

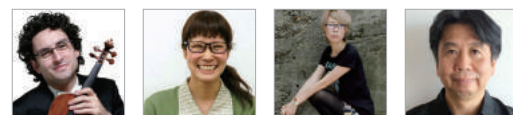
会場 SANSEIDO GALLERY



TEDxYouth@Kobe “Growing Tree” 2014.11.16

会場 Canadian Academy

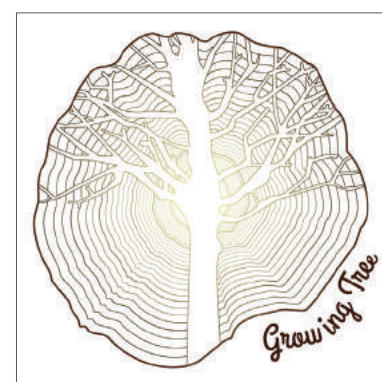
スピーカー



マウロ・イウラート 菊川 恵 重光 あさみ 松原 永季



古荘 貴司 浦田 高幸 岸田 ひろ実



TEDxKobeSalon “Facing Barriers” 2015.1.17

会場 神戸ポートピアホテル キーノート

スピーカー



実吉 威



TEDxKobeSalon “Discovering You” 2015.3.8

会場 神戸ポートピアホテル キーノート

スピーカー



村上 豪英



TEDxKobeLive

Live from TED 2015 “Truth and Dare” 2015.3.9

会場 日本イーライリリー株式会社 神戸本社



TEDxKobe “Dive into Diversity” 2015.5.24

会場 神戸芸術センター

スピーカー



HAIOKA 池嶋 亮 金谷 一郎 片山 真理 リリアン テルミ ハタノ



松下 麻理 須本 エドワード 竹田 真木生 山寺 純 山上 遊



TEDxKobeSalon “Generate from Generations” 2015.12.6

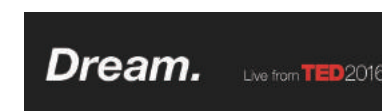
会場 ひょうご産業活性化センター



TEDxKobeLive

Live from TED 2016 “Dream” 2016.2.17

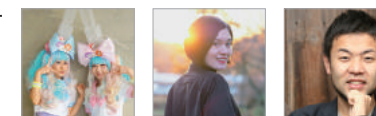
会場 Sports Bar “SPORTEREA”



TEDxYouth@Kobe “兆(きざし)” 2016.2.21

会場 ジーベックホール

スピーカー



esquisse wasabi 太田 英基



高橋 祥子 大久保 信克 袖月 恵



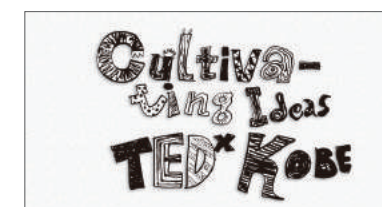
TEDxKobeSalon “Cultivating Ideas” 2016.3.6

会場 ひょうご産業活性化センター

スピーカー



鈴木 卓真



TEDxKobe “Spring out in unity” 2016.6.12

イベントアクティビティ紹介

TEDxKobeのカンファレンスで体験できるのは、スピーカーによるプレゼンテーションだけではありません。趣向を凝らした様々なアクティビティやパートナー、スピーカー、そしてパティシパント同士の交流を通じ、明日に繋がる「アイデア」を体感してください。

Dive into Diversity 2015.5.24

会場／神戸芸術センター(新神戸)



Before TEDxKobe



TEDxKobeの前身であるTEDxSannomiyaや過去のスピ
ンオフイベントにご登壇いただいた岸田ひろ実さん、実吉威
さんをお招きし、パティシパントと一緒に当時の映像を見た後
に、ご登壇された際のご感想やご登壇後の変化についてお
話いただきました。

Partner Booth



今回のイベントでは約70のパートナーにご協力いただき、会場内
のブースでは、最先端テクノロジーを体現するソフトウェアやウェ
アラブルグラス、遠隔コミュニケーションを可能にするロボット、さら
には「座った人をダメにしまうクッション」などを展示、パティシ
パントとパートナーの交流の場となりました。また、パティシパント
にはよりパートナーを知っていただくため、様々な商品サンプルや
パンフレットを詰め合わせたTEDxKobe特製ギフトバッグをお
渡しました。

Family Space



会場6階、高さ2メートルのキリンさんが出迎える入口を抜けると、
ファミリーで過ごせる畳60枚の観覧エリア。大人はビーズソファ
でくつろぎながらライブ中継でセッションを観覧し、隣の製作エリア
では、子供達が新聞紙プールで泳ぎや潜水を練習したり、大人や
スタッフと協力してダンボールの家やトンネルを作って遊んでいまし
た。乳幼児向けの授乳スペースでは、気持ち良くお昼寝している
子供もいました。総仕上げにはみんなで協力してダンボールのイル
カを制作、カラフルに彩られたイルカはアフターパーティ会場で
展示され、注目を集めました。

Lunch Break



会場横の生田川公園で用意したランチは人気レストラン「世界の
ごちそうパレルモ」※による5種類の世界の料理。アメリカ南部の
郷土料理「ガンボ」、ネパールの「ダルカリー」など、様々な地域の
風土・歴史が反映された料理が用意され、まさに Diversity を体
現したメニューが並びました。そして、公園に敷かれたのは100
枚の畳。屋内で行われた午前のセッションとは違って、春
の陽気の中、畳の上でピクニックのよう
なランチタイム。初めて出会う参加者同
士、食事を通じた交流が盛んに行われ
ました。

※「世界のごちそうパレルモ」は新規事業準備のため2016年3月に閉店しました。

Grand Salon



会場3階のグランドサロンは飲食可能スペース。セッション時はラ
イブ中継、ブレイク時は交流スペースとして利用いただきました。
PINT様のケータリング、六甲バター様のチーズやおつまみ、
Redbull様のエネルギードリンク、ネスレ様のコーヒーなどが提供さ
れ、セッション会場とは一味異なるリラックスした空間となりました。

Book Presentation

パティシパントそれぞれが好きな本を持ち
寄り、その本についての個人的感想や意
見を披露する本のプレゼンテーション。本
を通じて参加者同士が人の多様性を知
り、新しい交流が生まれていました。



Read Me!

本をDiversityの象徴とし、新たな出会いにDiveする、本の展示
／交換アクティビティ。特設ブースへパティシパント一人ひとりが
おすすめの本を持ち寄り、包装紙に本の紹介文(ポップ)を記入、
展示を行いました。小説やアート、絵本、実用書など幅広い本が
集まり、パティシパントはポップを楽しそうに見て回っていました。



After Party



各登壇者の素晴らしいプレゼン
テーションを楽しんだ後、メイン会
場近くのANAクラウンプラザホテ
ルにてアフターパーティを催しまし
た。ノーベル賞授賞式の晩餐会
で話題となった日本酒「福寿」の
鏡割りに始まり、登壇者 Haioka
氏によるBGMやオーガナイザーへ家族からの花束贈呈、チャン
バラ合戦などのサプライズ企画も行われ、あっという間の楽しい
時間となりました。開催地神戸の個性が光る様々な料理、六甲
ビールや神戸ワインでのおもてなしなど、最後までTEDxKobeら
しい会となりました。



スピーカーインタビュー

「T・E・D、なんとなく見たことあるかな？」から始まった、スピーカーへの第一歩。

田村 亜紀子 | TAMURA Akiko | Speaker

田村亜紀子さんは、当初TEDxのことは知らなかったのだそう。そんな彼女は、どんなきっかけから、結果的にたくさんの人の心を打つスピーカーになったのでしょうか？



力不足だと思っていた

オーガナイザーとは直接の面識はなかった田村さんは、共通の知人を介してTEDxSannomiyaとの繋がりを得ます。でも、その時は自分では力不足では、と感じたのだとか。「実際求められていることと私の存在っていうのは違うんじゃないかと思ってました。18分ですごく大きいインパクトを与えるプレゼンテーションというのは、もっとその存在を知られた有名な方がする、そういう場がTEDxだと思っていた。そういう話をする、(オーガナイザーである)舟橋さんが『想いを持って活動している方に話をしてほしいんです』と言われて、それならとOKしたという感じ」。

そんな探り探りのスタートから、決して長くはない準備期間を経て、あのプレゼンテーションが完成したわけですが、それを終えて、田村さんが感じたこと、それは「18分でこんなに伝わるんだ!」。「プレゼンテーションに対する考え方がすごく変わって、『自分の伝えたいことを18分に凝縮できた』ということと、当日のアフターパーティの場でのみなさんの表情やかけてくださるお言葉や、私を見る目、もちろん可哀想な目で見えるわけではないし、そういう印象から、すごく伝わったって思いましたね。みなさん前を向いてくれてるというか」。

普段、講演などの機会はたくさんある田村さんですが、TEDxのプレゼンテーションは、それとはまた少し違うとおっしゃいます。その違いはつまり「想いを共有できたのかな」と感じるころにあるのかも。

いいものにしようという 思いは全く無かった

そんな印象的な経験になった田村さんのプレゼンテーションですが、その過程のキュレーション(※TEDxKobeスタッフとスピーカーさんで行うプレゼンテーションのブラッシュアップ作業)ではかなりの紆余曲折があり、「えーっ!」と思ったこともあったようです。



「原稿まで出している段階で『で、言いたいことは何なんですか?』なんてことを聞かれる。普通の講演では、そもそも原稿なんて出さない。原稿の中に、それは書いているつもりなんだけど、足りないみたいで。いい感じでゴールが見えてきたかなと思った時に、またイチからやり直しのようなことを言われて、すごくショックを受けて。それでもう一回深く考えました。一番伝えたいことは何か、っていうのを何回も考えさせられて…」。

アフターパーティの時にマイクを向けられた田村さんの一言は「いじめられた〜!」(笑)。それでも、やめちゃいたいとは一度も思わなかったという田村さん。「これは、いい結果が出る過程なのか、ただ単に翻弄されているのかっていうのがわからなくて。でも、突っ込まれていたところは、私自身も日々の活動の中で迷いがあったところで、それが曖昧な形で伝わっていると。それが、

キュレーションの中ではっきりしていった。だから、ショックを受けたくど、その(イチからやり直しさせられるような)一言がなかったらあんなふうに喋れなかったかもって思うので、すごく感謝はしてるんです」。

結果的に、ご自身の活動の中での迷いを突き詰め、私拭する必要もあつたキュレーションは、思いもよらない効果をもたらしたようです。「確信もいたものもなく、とにかく何が大事だ、って聞かれるからその答えを出すしかなかった。結果それがいいものになったと思います。スタッフのみなさんも、一緒になって『大事なことはなんだろう』って時間を割いて考えて、本当に伝えたいことを伝えるために必要なのがこの作業という感じで、いいものにしようみたいな気負いはなかったですね」。

18分の「宝物」

TEDxでのプレゼンテーションは、当日だけでなく、Youtubeでも追って拡散していきます。その波及効果は人それぞれですが、その後の田村さんの変化はどんなものがあつたのでしょうか。「TEDxのプレゼンテーションでは言い切らなければいけないので、そこに葛藤はあつた。それによる反発は、具体的にはないけども、あると思って喋らないといけなし、行動しなければいけない。ただ、ケアサポートという、同じような経験をした人と今まさに苦しんでいる人が対話するという活動があるんですが、そこで相談に来る患者さんやご家族からしたら、私が『わかりやすい』と。つまりただ『小児ガンの子供をもった経験者です』と言うよりは、『田村亜紀子』で調べれば全てオープンになるし、TEDxSannomiyaの動画で私の考えや経験を知って、この人に相談しようって決めることができる。だから、私の

動画を見て嫌な人は相談しなくていいし、喋ってみたいと思ってもらえたら、相談してもらえるので、やはりオープンにするのは、大事だと思います」。

この18分によって、凝縮した想いが伝えられ、それが自分の信頼を得るために切るカードにもなり得るのです。田村さんにとって、TEDxのプレゼンテーションは「息子の発病からチャイルド・ケモ・ハウスの活動にかけて、足掛け10年の堅く言えば『成果物』、柔らかく言えば『宝物』」。登壇から時間が経ってもなお、その時の想いは変わることはないと言います。たかが18分。されど18分。自身を丸裸にし、不要なものをすべて削ぎ落とした18分の「アイデア」は、その後数年におよぶ相互信頼を一瞬で勝ち得る「履歴書」になるのかもしれない。

田村 亜紀子 TAMURA Akiko

1996～2000年多文化共生センタープロジェクトコーディネーター。2000年第1子出産。2002年長男が神経芽腫(小児がんの一種)と診断され、1年間の付添生活を送る。2005年小児血液・腫瘍分野における人材育成と患児のQOL(Quality of Life:「生活の質」)。人間らしく充実・満足した生活を目指す生活の質)に関する研究会の立ち上げに加わり、2006年研究会から発足したNPO法人チャイルド・ケモ・ハウスの発起人メンバーとして活動を開始。

TEDxSannomiya 9th March, 2014
A style of family



<https://youtu.be/59hzFmkYQsg>



A Style of Family | TEDxSannomiya

スピーカーインタビュー

TEDxKobeがあったから、僕は今、迷いなく走れている。

池嶋 亮 IKESHIMA Ryo Speaker

『外遊びを再び日本の文化にする』、チャンバラ合戦-戦IKUSA-。その活動に込められた『遊びの価値』を再発見し、自らが次のステージに飛躍するための一歩を踏み出した、“あの日”と“その後”の物語。

自分の中の“アイデア”を言語化する整理期間だった

『大阪を世界一面白い街にする』という夢のためにNYへ行き、帰国後、大阪で志を同じくする仲間に出会った。それから4年。限られた人生でこの大きな夢を実現するためには、イベンターとして裏方に徹するだけでなく、自らも輝き、そして誰かを照らす“太陽”のような存在になるべきじゃないか。そう考え、講演等、表舞台に立ち始めた頃に知ったのがTEDxKobeのスピーカーオーディションでした。「自分の中で、“輝いてる人”のひとつに、TEDに出ている人っていうのがあって。でも、TEDxが公募制ってまったく知らなかった」。そう言う池嶋さんがオーディションに挑むアイデアの源泉としたのは、所属するNPO法人ゼロワンが提案する新しい外遊び、チャンバラ合戦-戦IKUSA-。「外遊びを再び日本の文化に」というミッションを掲げたこの活動そのものが素晴らしいアイデアだ、という声がある中、池嶋さんが確信していたのは、チャンバラはアイデアを伝える“手段”であって、伝えたいことそのものではない

ということ。「自分の中にアイデア=伝えたいことはある、と確信していたけど、まったく言語化できていなかった」。遊びって大事だね、みんなで遊びましょう!という決めた台詞に対して、TEDxKobeのオーガナイザーが一言、「それアイデアじゃなくてメッセージだね」。そこから本番直前まで、スピーカー担当のスタッフと併走する約3ヶ月にわたる試行錯誤が始まります。「苦しかったです(笑)。担当スタッフと何度も話し合って、結局『チャンバラという活動がアイデアだ』という話に戻り、ほぼ形になった時期があった。でもやっぱり自分の中で納得してなかった。本番出たくない、とまで思いました」。

アイデア探しが混迷を極める中、ひとつの出来事が起こります。本番一週間前の2015年5月17日、大阪都構想を巡る住民投票。「大阪の未来が決まる運命の日を経て、ふと思ったのが『待っていても、自分たちの求める未来は決してやって来ないんだ』ということ。つくりたい未来は自分たちでつくるしかないし、求める未来は行動する人間が引き寄せるものなんだと。『もう一度自分のアイデア

と求める未来に向き合おう』突然スイッチが入ったんです」。アイデアをもう一度自分の言葉にする、と決意した池嶋さん。「気付いたのは、楽しいことをするのは、絶対的な正義だということ。だから、『楽しいことをする空間をつくる』というのは、絶対に誰かのためになる、という確信を持てた。自分の活動を信じて肯定することができた。まずそれがひとつの前進でした」。そして出会ったのが“神楽(かぐら)”にまつわる一説。五感を解放した時にできる心の隙間に他者(神様)を入れる、というのが神楽であり、“遊び”の起源だと知ります。「遊びには、心を無にして心の隙間をつくるっていう意味があると知った瞬間に、これだ、と思った。今、他人や新しい価値観を受け入れられないのは、そのための余裕がないから。なら遊びは、新しいもの、多様性を受け入れるための準備として世の中に必要なんだって。心の鎧を脱いで隙間をつくる行為自体が『遊びの価値』で、それを生み出していくのが自分なんだって腹落ちしたんです」。たどり着いた“アイデア”。本番3日前のことでした。

自分の内面、そして社会的信用という大きな変化

最後にたどり着いたメッセージは「みんなで遊びましょう!」。オーディションの時と同じでした。ただ、その言葉に込めたもの、自分の活動に対する自分自身の理解が、比べものにならないほど深まったと言います。今後、チャンバラ合戦-戦IKUSA-が飛躍するために絶対に必要な理解で、この苦しみがあったから、今迷わずに走れていると、池嶋さんは振り返ります。「4年かけて積み上げてきたチャンバラ合戦-戦IKUSA-という看板を背負って大舞台に立ったことで、覚悟ができた。メンバー 30人の想い全部背負って、自分の言葉にのせて発信することが、プレッシャーから楽しみに変わりました」。そう話す池嶋さんは、2016年1月にNPO法人ゼロワン代表に就任。TEDxKobe登壇を通じ、周りの目や、チャンバラ合戦-戦IKUSA-への依頼内容が驚くほど変化したことで、自分が表に出る意義を実体験を通じて理解したと言います。

チャンバラ合戦-戦IKUSA-の活動も大きく広がっています。ひとつは、企業からのオファーが爆発的に増えたこと。「トーク動画を見て依頼くださる方が増えていて。情熱を持った方、明確にこういうことをやりたい、という質の高い依頼が増えました。代表がTEDxイベントに出て話すほどの活動と認識されて、社会的信用が得られたのは大きかった」。



チャンバラ合戦-戦IKUSA-のルールは簡単、スポンジ製の刀で相手の腕につけたボールを落とす。誰もが楽しめる「世界一平和な合戦」!



CHANBARA: Samurai battle game that disarm your heart
TEDxKobe 2015

もうひとつは、内外に広がる“人の輪”。メンバー以外にも、TEDxKobeを通じて知り合った人が新たなプレーンとなり、活動を盛り上げています。「勝手に営業してくれる人とか(笑)。僕らのことを一緒に考えてくれる人が増えて、人と人との掛け算みたいなものが生まれています。自分自身がイベントに感じている価値もそこで、世の中に情報が溢れている今、FACE to FACEでしか手に入らない繋がりがあると思う。TEDxKobeはまさにそれを体現できたイベントで、チャンバラがこんな広がりを見せているのも、その日、そこで出会った人同士がちゃんと向き合って、何かを感じたことの証だと思っています」。



TEDxKobeとの関係性は、「ゲスト」ではなかった

長い長いアイデア探しの旅。TEDxKobeのスタッフと一緒に船に乗ってくれた、と話す池嶋さん。スタッフとイベントゲストとの関係は、通常、良くも悪くももっとドライ。でもここには、一緒につくりあげる「協働」があり、も

はやメンバーの一人という感覚がありました。これを今後も継続してほしいと言います。イベントを1回1回の「点」ではなく、年月を越えた「線」にすることで、その価値や広がりはまったく変わってくるはず。「オーガナイザーが最後に、『僕たちはこれからが始まりだから!』って言ってたんですけどね、こっちもそのつもりですよ、っていうのが、僕からの逆メッセージ。今後はいい意味で、プレッシャーを与えあえる存在であれたらと思います」。

池嶋 亮 IKESHIMA Ryo

Event Organizer。1988年大阪生まれ。チャンバラ合戦-戦IKUSA-の主催団体「NPO法人ゼロワン」代表兼理事。留学生・世界旅コミュニティ「Terminal」代表。学生時代のアルバイトがきっかけで、エンターテイメントによる街の活性化に興味を持つ。2014年、ゼロワンを法人化し、今後のさらなる活動の拡大を計り、遊びの可能性を追求する。

TEDxKobe 2015 24th May, 2015
CHANBARA: Samurai battle game that disarm your heart



https://youtu.be/mPvXL8Xbl_Y

何も成し遂げていない自分にも価値がある。 夢が叶ったステージで得られた確信が、 その後の人生を変えました。

岸田 ひろ実 | KISHIDA Hiromi | Speaker

その日、車椅子でステージに上がった岸田ひろ実さんは、キラキラの笑顔でとても楽しそうに、幸せそうに、ご自身のアイデアをお話してくださいました。後に6万を超えるシェアになるこのプレゼンテーションは、彼女が講師として教える「ユニバーサルマナー」だけでなく、どんな人にもある「価値」や「価値の多様性」を、彼女の体験から語ったものでした。



人生が変わった

岸田さんは、お勤めされている株式会社ミライロでは、講師として人前でお話する機会はあったものの、あくまでそれは「決められた講義を話す講師」であり、「自分のエピソードを話せる講師」ではありませんでした。しかし、いずれは、自分の経験を話す機会を持てたら、という希望はあったそう。「自分の講演のお手本が、(ミライロ代表である)垣内(俊哉氏)だったので、彼のようにいろんな人に求められて自分の話をしたいなと。『岸田ひろ実さんにお話いただきたい』と言われるのが目標で、そのきっかけに、もしかしたらTEDxYouth@Kobeがなるかもと思ったので、死ぬ気で頑張ろうと思いました(笑)」。

結果、その夢は叶い、イベント後は「岸田さんに」と名指しでの講演依頼が爆発的に増えることになりました。「180度人生変わりました」とおっしゃる岸田さんですが、登壇までの道のりは決して楽なものではなく、プレゼンテーションの内容も当初作ったものからは想像のつかない変化をたどります。

みんなのハートに響いたエピソードは、忘れかけていた「2億%」

岸田さんのプレゼンテーションで象徴的なエピソードは、彼女の娘さんが「2億%大丈夫」と言い切る場面(詳細は動画をご覧ください)。このエピソード、実は岸田さんも

娘さんも、忘れかけていたものだったのだそう。「あの言葉というのは私たち家族には大きな思い出ではなくて、(TEDxKobeスタッフに)そこはすごく入れた方がいいって言われて。あ! そうなんだ! こんなことに興味を持っていたけるんだ、と。だからキュレーションがなければ、『2億%』について話すことはなかったと思います。ご自身に「ネタ」がありすぎるからこそ、プレゼンテーションの根幹を限界まで絞り込むキュレーションは困難を極めます。

「講師として、決められたことをこなすのに必死だった自分にとって、キュレーションは自分と向き合う時間になった」とおっしゃいます。同時に「自分に話す価値などあるのか」という葛藤もあった岸田さん。「人の前に出て話をするってなっても、私は何も成し遂げていないわけなんですよ。何かを作って成功しているわけでも、会社を作っているわけでもないし、ただ1人のおばさんが、みなさんの前で話すなんて。ただ他人よりちょっと大変なことがたくさんあっただけで出ていいのかなと思っていてすごく不安で。このTEDxYouth@Kobeでは自分の話だけじゃないですか。仕事では、岸田ひろ実とわかって来ていただいても、このTEDxYouth@Kobeのプレゼンテーションっていうのはみなさん私のために来ているわけじゃない。そういった方に対して、私の話ってどう心に響くんだろうって。そもそも私の話を聞きたいと思っているのか。不安で自信がなくて、いいのかなとずっと思っていた」。結果、彼女を待っていたのはスタンディングオベーションと、たくさんのうれしい反響でした。

「自分にも価値がある。自分の話をしているんだ」という自信につながったのです。

終わった先に見える景色がある

TEDxYouth@Kobeでのプレゼンテーションは、彼女を取り巻く環境以外にも、発信していく講演内容にも変化をもたらしました。「TEDxYouth@Kobeの後は講演でも自分の話を長めに入れるようになりました。でも、娘の意見で、やはり、みんなが経験していないような大変なことが多すぎて、自分の身に置き換えると想像ができなくて方もいるかもしれないから、ちょっとその部分を削って、2年間ミライロの講師としてやってきたことを多めに話してみようかなってなったんです。でもやはり、依頼される方に『いや、もうちょっと岸田ひろ実さんの話を』って言われたんですね。TEDxのプレゼンテーションのような話をメインでしてほしいと。私や娘は、くどくなるから外そうと思うこともあったんですけど、引き戻されて、結局また(TEDxで話したような内容を)話してくださいって。だから私も自信を持ってさらに話ができるようになった。ああ、みんなが求めているところはここなのか、という気はしました」。

結果的に、ご自身のライフワークにダイレクトに影響したTEDxでのプレゼンテーション。振り返って岸田さんは「終わって思うのは、あれ(キュレーション)を乗り越えないと、人を感動させるようなプレゼンテーションはできないんだろうな」。最終的に、ご自身で作られた初稿が「なんと、こんな面白くないものを作っていたのか」と

思えるほどに、実際のプレゼンテーションは全く違うものになったのです。「自分なんて…」と、多くの人がひとりごちているかもしれません。でも自分以外の誰かにとって、金塊よりも価値のある「なにか」をみんな持っているはず。TEDxYouth@Kobeでのプレゼンテーションは、岸田さんがご自身の価値について、障がいのある価値についてあらためて問い直す機会になりました。重大なミッションを完了してはじめて、見える景色があると、岸田さんは言います。「キュレーションは苦しかった」けれど、それを乗り越えたからこそ、登壇の時よりもなお、彼女の笑顔は輝いているのかもしれない。

岸田 ひろ実 KISHIDA Hiromi

知的障がいのある長男の出生、夫の突然死を経験した後、自身も2008年に病気で倒れる。生存率20%という危機を乗り越え、一命は取り留めるものの、後遺症で下半身に麻痺が残り、以来車椅子での生活となる。現在は株式会社ミライロの講師として車椅子の方など障がいのあるお客様や高齢者の方への接客研修を行うと同時に、日本ユニバーサルマナー協会の講師としても活動している。

TEDxYouth@Kobe 2014
16th November, 2014

The key to have a wonderful life —
Make your barrier your value!



https://youtu.be/9z39oxMj_t8



The key to have a wonderful life — Make your barrier your value!
| TEDxYouth@Kobe 2014



本場のTEDに迫っていた TEDxKobe 2015

「1993年5月に本場のTEDが神戸にやってきてTED4KOBEをやったのをご存じですか？僕はそれを見物に行ってたんですよ」と永吉さん。
「MIT メディアラボ所長のニコラス・ネグロポンテなど、各界の著名人を直接自分の目で見たのを今でも覚えています。本当にすごいイベントだったのですが、当時はTEDもまだ4回目の開催で、日本では知らない人がほとんどでした。そんな中、日本からは“マルチメディア”と言われる業界の人が軒並み参加していましたね。アスキーの西和彦さん、ソニーの出井伸之さん、デジタルハリウッドの杉山知之さんなどです」。

そんな歴史的な機会に立ち会い、その後インターネットの世界でビジネスを本格化させておられる永吉さん。2015年5月に開催されたTEDxKobe 2015に参加して、TED4KOBEにも通じる「空気感」を感じられたといいます。
「TEDxKobeは、あれはいいなと思いました。ああいう空気感が大事なんです。プレゼンテーションの内容はもちろん大事ですけど、それ以上にそのプレゼンテーションを参加者にしっかりと見せるにはステージや会場の環境作りもとても大事で、そういう点でも本場のTEDに迫っているなあと。『こんな神戸でできるんやな』と驚きましたよ」。

変化を求められる時代に、 企業人は「課外活動」が重要

では、なぜ神戸デジタル・ラボはTEDxKobeのパートナーとして応援し続けてくださるのか。お聞きしていると、永吉さんの考えるこれからの企業人のあるべき姿が浮かび上がってきました。
「TEDxKobeを応援しているのは、当社が神戸に本社があり、神戸を活気づけたい、良くしたいという気持ちがあるからです。神戸に元気がなくなればなくなるほど、我々の仕事も減っていきますからね。しかし、それ以上にTEDxKobeのような『課外活動』にこそ、当社の社員には参加して、新たな可能性を感じて欲しいから支援しているという理由の方が強いですね。社員にビジネス以外の課外活動に参加できるような余地を残しておく、日常の仕事にそれが反映されたり、あるいは社外の人脈ができたりと、結果的には企業としてもメリットに繋がることを実感しているんですよ」。

永吉さんの考えは、変化を求められるこれからの時代に必要な企業人のあり方にもおよびます。
「マーケットがコロコロ変わっているので、マーケットニーズを追うだけでなく、そこに先んじていなければならないのに、会社のことしか知らずに僕の言うことを全部『そうですね』とメモするような社員がいてもあまり意味はありません。そうではなく、もっとこんな見方がある、こんなことを見聞きた、と新しい情報を自分の足や耳で手に入れる。あるいはもうすでにやっている、とかの方が、僕は楽しいし、そんなスタッフが居る会社の方が

長持ちすると思っています。ネットサーフィンだけしていても、本を読んでいるだけでも手に入らない。課外活動は、新しいビジネスのアイデアと人脈を同時に開拓しているようなものなんです。もちろん、すべてがビジネスにならなくても構いません。しかし、いつでもそういうことに対応できるような訓練は、外の人に触れ合うことでしかできないんですよ」。



自分が楽しみながら周りを 巻き込んでいくコミュニティに

そんな永吉さんに、これからのTEDxKobeに期待することをお聞きしました。
「TEDxKobeに限らず、『神戸をより良くしよう』と活動している団体にありがちなのは、思いが強ければ強いほど、対象のよくわからないぼんやりとしたものと聞っている感覚に襲われてしまうことなんです。そういう義務感でやっても長続きしないので、基本は『自分が楽しい』ということが大事だと思います。もちろん、自己満足とか利己主義ではなく、自分たちが楽しみながら活動しつつ周りも巻き込んでいって、結果的に2割くらいの人を幸せにできれば良いのかなど。そうすればコミュニティとしても意味あるものになってくると思います。TEDxKobeには、そんな楽しさとパワーのあるコミュニティとして今後も期待しています！」

日本で唯一本場のTEDがやってきた神戸の地で、TED4KOBEのこともご存じの永吉社長からTEDxKobeへのエールをいただきました。今年も「楽しさ」を行動原理としながら、価値あるアイデアを神戸から発信していく活動を続けていきたいと思います。



株式会社神戸デジタル・ラボ
<http://www.kdl.co.jp/>

1995年10月設立。初期はホームページ制作やシステムのインターフェイス設計・製作などを手掛けながら、徐々に業務システム開発へとアプローチし、企画・デザインとソフトウェア技術両面に強い研究・開発型企業としてのポジションを確立。現在社員は160名を超え、企画・デザイン業務からシステム開発、コンサルティングまで幅広く対応しています。

パートナーインタビュー

洗練された空気感と楽しさで繋がる コミュニティに期待しています

株式会社神戸デジタル・ラボ 代表取締役 永吉 一郎氏 | TEDxKobe Partner

阪神・淡路大震災発生直後の1995年10月に神戸の地に創業したIT企業、株式会社神戸デジタル・ラボ。
1993年に神戸で開催されたTED4KOBEもご存じの同社代表取締役の永吉一郎さんは、TEDxKobeの前身、TEDxSannomiyaの時からパートナーとして応援し続けてくださっています。
神戸の様々なイベントに協賛する経営者の根底にある「神戸」への強い想いをお聞きました。

Kobe
Digital
Labo



左:ジェフ・ラップ氏 右:クレイグ・ジェニングス氏

パートナーインタビュー

3年目となる今回からはTEDxKobeとよりインタラクティブな関係に

株式会社ランゲージ・リソース

代表取締役会長 ジェフ・ラップ氏 (応用言語学修士 / Cert.TEFL)

代表取締役社長 クレイグ・ジェニングス氏 (Cambridge DELTA, CELTA)

TEDxKobe Partner

神戸で創業し、35年の歴史をもつ語学学校、株式会社ランゲージ・リソース。クリエイティブなアイデアを活用しながら生徒一人ひとりにあったカリキュラムをつくることを教育のモットーとしています。当初から年間パートナーとしてコミュニティを間近で見てこられたお二人にTEDxKobeのこれまでとこれからをお伺いしました。

TEDxKobeとの共通点

「ある日、うちのスタッフがこれを見てください!と1本のTEDトークを紹介してくれました」(クレイグさん)
それは、ケン・ロビンソンによる「学校教育は創造性を殺してしまっている」というもの。「それは教育のシステムによって、どのように子供たちのクリエイティビティを育てられるか、という話で、それがすごく面白かったんです。試験のために、ものごとを“覚える”のではなく、どうやってもっとクリエイティブに学ばせるか、ということについての話でした」(クレイグさん)

そのTEDトークとの出会いをきっかけに、様々なトークを見るようになったというジェフさんとクレイグさん。そのうちにTEDの根底に流れる理念とランゲージ・リソース(以下LR)の教育との共通点を感じるようになったといいます。
「LRの教育のモットーもクリエイティビティ。他の大手英会話学校は決まったシステムの中でいかに運用できるかを重要視しますが、LRはそうではありません。一人ひとりの考えを大事にします。そのためにはクリエイティブな考え方をしないと、その人の本当に学びたいものがわからない。クリエイティブな『人間』

向けの教え方でカリキュラムを作ります。TEDxは新しい考えや、クリエイティブな考えを広めるもの。『神戸』、『教育』、『クリエイティビティ』。TEDxKobeとはたくさんの共通点があると思いました」(ジェフさん)
その後、TEDxSannomiyaから関わるスタッフのひとりとの出会いをきっかけに、パートナーになることを決意し、今年(2016年)で3年目。TEDxKobeを継続して応援してくださっています。



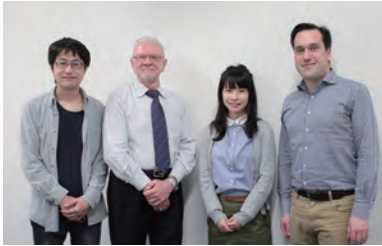
だんだんと変わってきたTEDxKobeとの関係

TEDxKobeの前身であるTEDxSannomiyaからずっとイベントをサポートしてくださっていますが、どのような感想をお持ちか、伺ってみました。
「TEDxSannomiyaの時は、規模は小さかったけれど、あたたかい感じでした。

そしてスピーカーのバラエティの豊かさが印象的でした」(クレイグさん)
「去年(2015年)のTEDxKobeでは、以前より規模が大きくなりましたね。会場の雰囲気など、プロフェッショナルになったような、オリジナルのTEDのようだと思いました。ライティング(照明)なども良かったし、いろんな面で大変良かった。でも正直言うと、今まではプレゼンテーションは面白かったけど、LRにとって影響はあまりありませんでした。最初の1、2年はパートナーの資金協力がほしいだけ、という感じでした。TEDxKobeがパートナーの目標、メリットがどこにあると考えていらっしゃるのかまったくわからなかったんです。だから今回はどうかと思っていましたが、今年はちがう。TEDxKobeのスタッフがパートナーの目標やメリットがどこにあるのかということを考えてくださった提案がたくさんありました。じゃあ、今年もサポートしよう!と2人で決めました」(ジェフさん)

厳しくも有難いご意見をいただき、2016年からは協賛をいただくだけの一方通行ではなく、「TEDxKobeコミュニティ」として共に価値をつくっていききたい、という想いを丁寧にお伝えしていききました。
その結果、TEDxKobeSalonなどの小規模

イベントや、スタッフミーティングにも積極的に参加してくださっているお二人。スタッフやパティシパントと実際に交流し、いろんなニーズをさぐってもらうことで、今年はTEDxKobeスタッフ向けの特別英語コースを開講していただくなど、より密接な関係を作れるようになりました。
「今回はTEDxKobeとの関係がもっとインタラクティブ(双方向)になっていると感じます。例えば、ミーティングにも参加するなど、前の関係と比べると、ただのスポンサーとイベントのような関係ではないですね。今回はすごくいいと思います」(クレイグさん)



これからのTEDxKobeに期待すること

パートナー企業と共にイベントを作るという関係性が少しだけ前進したLRとTEDxKobe

ですが、これからのTEDxKobeにどんなことを期待しているかを伺ってみました。
「イベントに関してはこのまま大きくなってほしい。トークのバラエティはキープしながら」(クレイグさん)
「神戸は震災があってもう20年を超えました。でも、まだ心身共にいろんなダメージがあって、例えば大阪に行くともっと違う国のように感じることもありますね。今から神戸をもっとどういうふうに戻させていくか、神戸の将来をどうするか、というようなテーマがあればいいですね。ただ面白いだけでなく、これから実際に神戸をどういうふうに発展させるか、というようなアイデアがあればいいかと思います」(ジェフさん)

ジェフさんは35年前に神戸で起業してから、ずっと神戸の街を見続けてきました。彼と同じように、人々が輝き、生き生きしている街にしたいというのもTEDxKobeが目指すところ。これからも、単なる「イベント団体」と「スポンサー」という関係ではなく、共に価値をつくり、神戸の街をよりよくしていくコミュニティの仲間でありつづけたいと感じました。



LANGUAGE RESOURCES

LANGUAGE RESOURCES

株式会社ランゲージ・リソース
<http://language-resources.co.jp/jp>

1981年以降、多くの大手企業と外資系企業に英語、日本語トレーニングと翻訳サービスを提供。神戸を起点とした語学研修、翻訳サービスの提供は、関西だけでなく北海道から九州まで全国にわたり多くの企業に支持されています。顧客は鉄鋼業や自動車製造業から金融業まで多岐にわたり、それぞれの業種のニーズを分析した上で、様々なトレーニングを展開しています。
在日英国商工会議所(BCCJ)主催のBritish Business Awards 2013でランゲージ・リソースはBCCJ委員会より、日産自動車株式会社や大阪府国際化戦略実行委員会などと共にGlobal Talent(グローバル人材開発)部門でノミネートされました。



パティシパントの声

TEDxKobeでは、各イベントに出席いただくゲストを「パティシパント(参加者)」と呼び、コミュニティの大事な一員と捉えています。ご参加いただいたみなさんからの声を、ここで一部紹介します。

●こんな経験をまたできるならば是非。経験というか、空気感、一体感を感じることは普段の生活ではあり得ません。ただのプレゼンテーションイベントなら行きません。TEDxの良さを知ってしまったからまた参加したいです。

●最も強烈に印象に残ったのは「人との違いは強みとなる」ということ。実際のアクションに直結するような気づきや提案をイメージや空気感と共にいくつも受けとることができました。

●僕の乏しい語彙を用いて端的に表現するならば「とても有意義で素敵で楽しかった！また参加したい！」

●10名のスピーカーのお話もとても興味深く面白かったのですがそれだけではなく、TEDxKobeがとても素晴らしいと思ったのは、一般的な講演会のように話を一方的に受け身で聞くスタイルではなく参加者もスタッフもスピーカーも、その場にいる全ての人々が対等に主体的になって人々と話をする機会を与えてくれるということでした。

●言葉で表現するには足りないですが、感動しました。伝えたい想いは届く。感動しました。

●I'm impressed how much of Kobe's identity revolves around the 1995 earthquake.

●TEDxSannomiyaから、何度か参加していますが、いろいろなアイデアがスパークする感じがとてもいい。スタッフのみなさん、細部に神が宿る配慮、感謝しています。神戸を舞台に活動していることの素晴らしさを感じました。がんばろう。

●一夜明けても、まだまだ興奮が冷め止まない。TEDxKobe、最高でした。

●講演はもちろん、交流をopen-mindedでできた時間がとても楽しかったです。communityを考えるにあたって、他者の意見をきいて、自分であらためて考えるきっかけにもなりました。今日のことを、まわりにも広げていきたいと思います！ありがとうございました!!

●TEDxKobeのパティシパントもスピーカーもボーダーを超えて、多様性を楽しんでいらっしゃいました。Dive into Diversityできていた光景に感動しました。

●いろいろな人の考え方の違いを聞くことで、新しい視点を作ってくれました。

●普段あまりかかわれていない人と交流することができ、どんな期待や価値を感じているかを知ることができた点。他の人から見た(感じている)TEDxKobeを知ることが自分にとって結構な発見だったりしました。

●参加者でグループとなり、最近のアイデアを語り合うということは、参加者の繋がりが深まり、また発表したアイデアを広げていったりと楽しい時間でした。

●A diverse atmosphere is a place where people with different viewpoints, different experiences and different ways of life can come together and share, so that we can learn from each other.

●本当に楽しかったし充実した一日になりました。明日からワクワクまた生活ができそうです。

●お疲れ様でした。TEDやTEDトーク、コミュニティについて、深い考えを持つ主催者の思いが伝わってきました。

●企画、運営についてはボランティア、スタッフの活躍もあって抜群に評価できたと感じました。参加申し込みをして、定期的に前日までメールでのフォローがありました。また、会場内での受付、案内も好印象を受けました。こういうイベントでは大切な部分です。

●アイデアとは何かを考え直す機会をいただきました。



TEDxKobe スタッフ紹介

「新しい変化を求めて」「TEDトークがどうやって作られているか知りたかった」

「イベントとしての運営体制に興味があった」など、スタッフ一人ひとりのTEDxKobeへの参加理由は様々。

彼らがどんな期待を持って飛び込み、今、何を感じているのか。ほんの少しですが、ご紹介します。



KIZUKA Hiromi

木塚 博美 age 32

●職業／広告代理店メディア担当

●TEDxKobeでの役割／

Event Management Team

イベント準備に関わる「人・モノ・時間」の管理を行います。全体スケ

ジュールで各チームタスクの進捗

を確認し、準備に遅れないかを

チェックしています。それと同時に、

各チームから詳細情報を吸い上げ、

スタッフ運営マニュアルを作成

します。

●TEDxKobeに参加した理由／

本業での業務は、様々なメディア

(新聞、TV、交通広告、雑誌、イベ

ント… etc)を使ってクライアントの

メッセージを発信することです。新

しいコミュニケーションツールを探

す中で、イベントとしてのTED

(TED/TEDxの集約力や運営体

制)に興味を持ったことが参加した

きっかけです。

●TEDxKobeで得られたもの！／

TEDxKobeは単に年1回のイベ

ントを創るための集まりではなくコ

ミュニティでした。そこは中・高校

生から社会人まで幅広い世代、

様々な所属の人が集まるまさに

Diversity。

各々の強み・得意を活かしブライ

ベートはもちろん本業でも活きる

関係が築けたことが一番の収穫で

す。困った時に助け合える仲間が

いるって心強いし、自分の世界が

まだまだ広がっていくのを感じなが

ら、今日も「大人の文化祭」を楽し

んでいます。



TAKAHASHI Koichi

高橋 幸一 age 41

●職業／システムインテグレータ

で法人向けの営業を担当

●TEDxKobeでの役割／

Participant Teamリーダー

●TEDxKobeに参加した理由／

当時は営業として自信をなくしてい

たので、気分転換ができればとい

う理由と、社会人大学院の申込時

に、ボランティアの実績が記入でき

るという理由で、スタッフ募集に応

募しました。

●TEDxKobeで得られたもの！／

自分から手を上げて携わった役割

を通して、様々な関係者の協力を

得ながらイベントをやり終えた時

に、自分でも人に感謝してもらえる

仕事ができるんだと、自信を得るこ

とができました。

それに年齢や立場を問わず様々な

方と知り合い、友人になったこと

です。学生の友人が増えて、日々ジェ

ネレーションギャップを楽しんでい

ます。



OKUBE Ryo

奥部 諒 age 23

●職業／大学生

●TEDxKobeでの役割／

Speaker Team

登壇されるスピーカーの方々の

トーク作成の補助・協力

●TEDxKobeに参加した理由／

もともと、プレゼンテーションが大

好きで、たまたまTEDxKyotoに関

わっている先輩に「プレゼン好き

ならうちに入らないか？」と誘いを

受けたのですが、「いや、僕神戸な

んですすがに京都は遠いですね…」

と答えたところ「TEDxKobeもある

ぜ？」と言われ、TEDxKobeに連絡

をとったのがきっかけです。

●TEDxKobeで得られたもの！／

参加した理由に書いたように、も

ともとはプレゼンテーションに携

わりたいという気持ちだけでした。そ

の他のことはあまり考えてなかった

のです。しかし、関わっていくうち

に気づいたこと・得られたことが幾

つありました。

①フラットな社会が存在するという

こと…TEDxKobeだけでなく、TEDx

というものに関わっている方々は年

齢や経験で人を判断しません。そ

んなものは建前だと思っていたの

ですが、本当にその人個人の個性

を見てくれる文化がありました。

②多様な価値観…スピーカーもス

タッフも含め、それぞれ異なる考

え方を持っています。それを隠さ

ずに表現してくれるので、毎回毎

回、新しい考え方・価値観に出

会うことができます。

③面白い人たちとの出会い…

TEDxKobeに関わり1年でFacebo

okの友達数は600人も増えまし

た。

これは単なる数字ですが、それ

だけ多くの人と出会うことができた

のはとても貴重なことです。また、

その人も非常に個性的で多様です。

TEDxに関わっていると友達になる

人で個性的でない人の方が少な

いくらいです(笑)



左:西村 彩乃

右:大橋 いつよ

NISHIMURA Ayano

西村 彩乃 (写真左) age 26

●職業／会社員

●TEDxKobeでの役割／

Participant Team

資金・物品提供といった与えて

いただくのみの関係にとどまること

なく、TEDxKobeの活動を通して、

パートナーとTEDxKobeお互い

にとっての価値を作り出すことを

目指しています。

●TEDxKobeに参加した理由／

社会人3年目の終わりに人生や仕

事についていろいろと悩んでいた

時、タイミングよくTEDxKobeスタッ

プ募集の広告を見つけ、何かが始

まる予感を感じ飛び込みました。

●TEDxKobeで得られたもの！／

たくさんありますが、一言で表現

すると「繋がり」です。TEDxKobe

というコミュニティに飛び込み、新

しい人・場所との繋がりがたくさん

できました。スタッフ・パティシパ

ント・スピーカー・パートナー問

わず、純粋にTEDxKobeの理念の

もとに集まり同じ方向を向いて活

動する仲間を得られたことは、私

の人生を何倍も豊かにしてくれて

います。このコミュニティの一員

であることとても誇りに思ってい

ます！

OHASHI Itsuyo

大橋 いつよ (写真右) age 26

●職業／営業

●TEDxKobeでの役割／

Partner Team

●TEDxKobeに参加した理由／

もともとTED/TEDxは興味があ

りました。タイミングよく神戸で

の開催を知り自分もつくる側に

関わりたいなど。社会人になって

からは生活パターンや付き合う

人も限られていたので、思い切

って新しい変化を求めてスタッフ

に応募しました。

●TEDxKobeで得られたもの！／

一番大きいのは、年齢や職業が

異なる人との繋がります。普段

はそれぞれ違ったことをしてい

るスタッフですが、同じゴール

に向かって動く一体感みたいな

ものが、とても新鮮で刺激にな

ります。また仕事のスキルを

仕事以外で活かす経験は、あら

ためて自分の仕事や役割を考

える上で、とてもよいきっかけ

になりました。



WADA Kai

和田 開 age 17

●職業／市立葦合高校 学生

●TEDxKobeでの役割／

Promotion Team・Break Team

過去にはPartner Team

●TEDxKobeに参加した理由／

単純にTEDが好きだったから

です。もともと学校の授業で見

ることもあり、TEDxのことは知

っていました。そんなTEDxが

神戸でも開催されると聞き、

すぐにスタッフ申し込みをし

ました。

●TEDxKobeで得られたもの！／

TEDxKobeにいますと、高校生

なりに自分の非力を実感すること

が多々あります。TED xYouth@

Kobe2016の際に所属していた

Break Teamでは、1つのアク

ティビティを作るのにたくさん

の大学生や社会人の方に協力を

いただきました。その中で、

的確な指示や、心強い協力の

返事をいただいた時、皆さん

に強い憧れを感じました。これ

までは、大学生や社会人は自分

もいずれなるものとして見て

いませんでしたが、TEDxKobe

の活動を通して、様々な方と

接し、皆さんのようになりたい

と、いわば目標ができました

。その目標に近づくためにも、

今年は受験勉強でTEDxKobe

にはなかなか参加できません

が、受験後にまた思い描いた

大学生として戻ってきたいと思

います。



TACHIBANA Takumi

橘 匠実 age 29

●職業／パナソニック 海外広報

●TEDxKobeでの役割／

Speaker Team

登壇候補の皆さんと打ち合わせ

をしたり、登壇が決まった方々

とトークの内容を日々議論してい

ます！

●TEDxKobeに参加した理由／

動画で見るTEDトークがどう

やって作られているか知りたく

て、仲間に入りました。実際

に入ってみると、多くの方々

が1つのトークを作るために

話し合い、悩み、葛藤されて

いることを知り、その世界に

ハマってしまいました！

●TEDxKobeで得られたもの！／

仲間との出会いはもちろん、

さらにスピーカーさんとの議論

の中で、相手の気持ちを深く理

解する感受性も学ぶことがで

きました。



KAJITANI Yoshinori

梶谷 良徳 age 22

●職業／大阪大学 学生

●TEDxKobeでの役割／

Participant Team

●TEDxKobeに参加した理由／

プレゼンテーションの持つ、

聞き手の共感と呼び、人を動か

すことができる力に感銘を受け

ためです。プレゼンテーション

を通してアイデアを発信し、

そこから世界を変えていこう

というTED/TEDxの理念に大

いに共感し、自分もその取り

組みに少しでも貢献したいとい

う思いから、TEDxKobeに

参加しています。

●TEDxKobeで得られたもの！／

多様性に溢れたコミュニティ

で、年齢や立場の違いを超えて

一つのイベントを創り上げるこ

とは今まで経験したことがな

く、自分にとって新鮮な体験

でした。イベントの運営を通

して、様々な人と出会い、

コラボレーションしていく中

で大きな刺激を受けるととも

に、イベントのオペレーション

など様々なスキルを身につ

けることができ、学びの場

ともなっています。



Chris CHRISTOPHERS

クリストファーズ クリスフランス

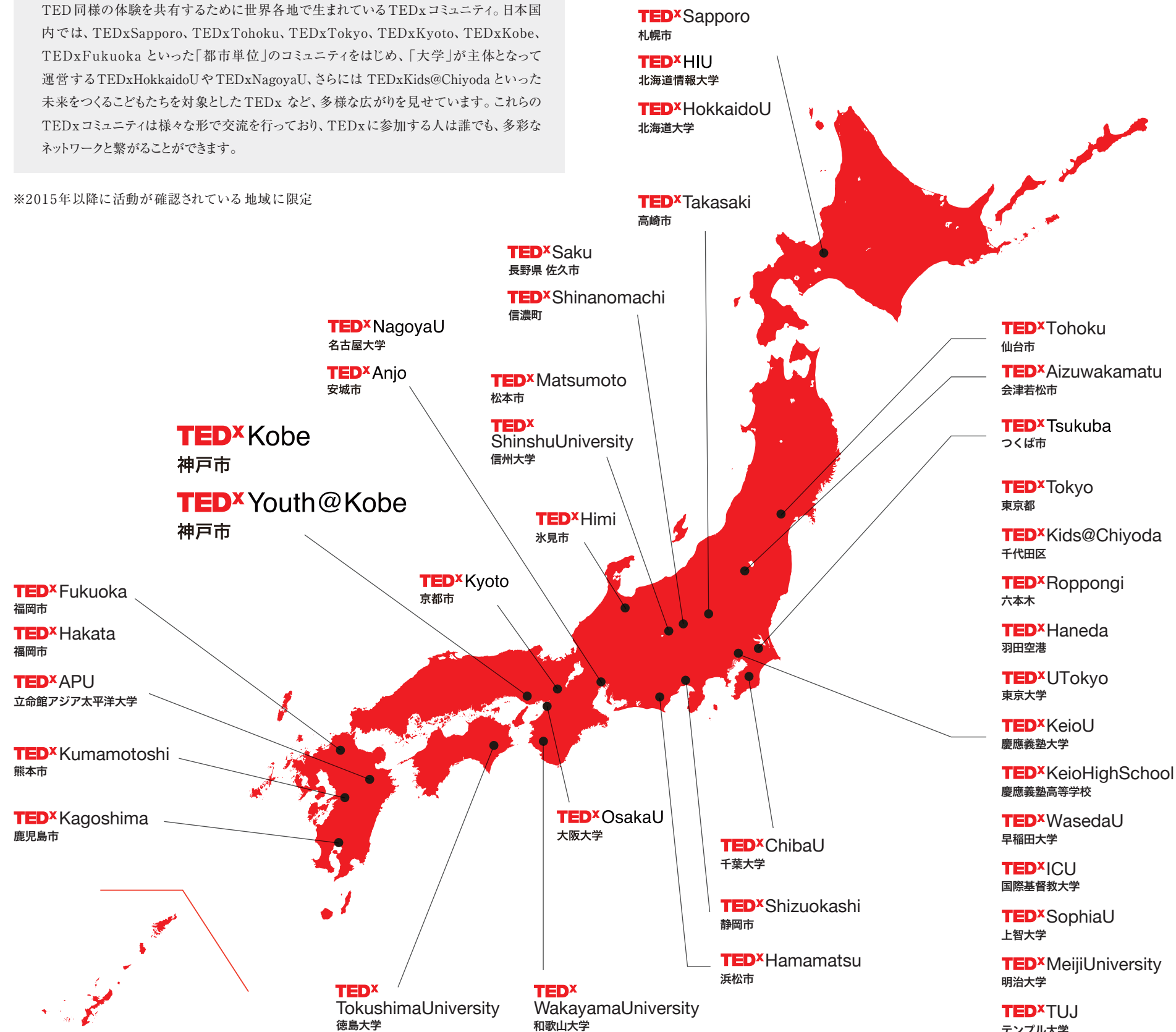
age 35

全世界170カ国、日本全国30カ所以上。広がり続けるTEDxコミュニティ同士のつながり。

地域を越えたTEDxコミュニティの交流

TEDの「Ideas worth spreading」(価値あるアイデアを広めよう)という理念に共感し、TED同様の体験を共有するために世界各地で生まれているTEDxコミュニティ。日本国内では、TEDxSapporo、TEDxTohoku、TEDxTokyo、TEDxKyoto、TEDxKobe、TEDxFukuokaといった「都市単位」のコミュニティをはじめ、「大学」が主体となって運営するTEDxHokkaidoUやTEDxNagoyaU、さらにはTEDxKids@Chiyodaといった未来をつくることもたちを対象としたTEDxなど、多様な広がりを見せています。これらのTEDxコミュニティは様々な形で交流を行っており、TEDxに参加する人は誰でも、多彩なネットワークと繋がるすることができます。

※2015年以降に活動が確認されている地域に限定



TEDx勉強会



日本各地のTEDxが、独自色を出して開催している中、TEDxKobeでは、コミュニティ運営やキュレーションのノウハウ交換などを行うことで互いにより良いコミュニティづくりが実現できると考え、国内のTEDxに関わる方々を招いた勉強会などを開催し、コミュニティの交流を促進しています。

OTP*の交流

※OTP=Open Translation Project



TED/TEDxトークへの字幕付けを行う世界規模のプロジェクト。価値あるアイデアを広めるために、TED/TEDxで行われたプレゼンテーションはYouTubeで公開されます。これらの動画に付けられる字幕(日本語・英語など世界100以上の言語)は、世界中にいるOTPメンバーによるものです。OTPはボランティアによる、先例のない規模の翻訳プロジェクトであり、各言語のランゲージ・コーディネータ達がまとめ役を務めます。母国語のみで参加することも可能で、誰でもOTPの一翼を担うことができます。翻訳、レビュー(校正)、承認などは全てオンラインで連携をとって進めており、このようなオンラインネットワークを通じて、より良い翻訳に向けた情報交換が行われています。

パートナーの相互紹介

TEDxは、運営資金や物資などの「モノ」や技術者などの「ヒト」にいたるまで、様々なパートナーの支援によって成り立っています。TEDxKobeでも、地元神戸で活動する企業様にパートナーとしてご参加いただいています。また、他のTEDxコミュニティからもパートナーをご紹介いただくことでより充実した運営を実現でき、他コミュニティとの相互連携を強化しながら、パートナーにとってもより価値を感じていただける体制を整えていきます。

学生コミュニティとの交流



TEDxには、大学生が主体となり大学単位で開催されるUniversityライセンスのイベントや、若年層を対象としたTEDxYouthライセンスのイベントがあります。それぞれのコミュニティはTEDの理念のもと独自に運営されていますが、大学や地域を越えた学生同士の交流も盛んです。

普段は県外のTEDxコミュニティで活動している学生が当日ボランティアとしてTEDxYouth@Kobeに参加したり、逆に神戸の学生が県外のTEDxにスタッフとして参加することも珍しくありません。運営についてのディスカッションなど、同世代間の交流が活発に行われているほか、TEDxに関わる学生に向けたプロのコーチングスタッフによる無償のコーチングセミナーなどもこれまでに実施されました。

このようにTEDxは世界中の学生や社会人、企業様など様々な人の協働・交流によって作られています。どのような立場の人にとっても、年齢や職種・業種を問わず、様々な人と接する機会があり、貴重な経験を得られる場となっています。



TEDxKobe
x=independently organized TED event

JOIN+PRESS

April 2016

Organizer

FUNAHASHI Takeo

Co-Organizer

SUZUKI Toshiro

Creative Team

HAMA Akihiro (Direction/Design)
KAMURA Kyoko (Direction/Design)
IKEDA Kayoko (Direction/Writing)
KAJIWARA Takako (Design)
KIMURA Hazuki (Design/Photo)
KIRIYAMA Yumi (Writing)
KATANO Ayako (Writing/Photo)

Special Thanks

FUMIOKA Akane
FUNAHASHI Tsuneo
HIRAMI Naoko
KAWANO Hiroko
KIHARA Kirara
NAGAI Koji
NISHIMURA Ayano
OKUBE Ryo
TACHIBANA Takumi
YAMASHITA Keisuke
YODA Koichiro

※掲載している情報は2016年4月現在のものです
※本冊子に記載している文章・写真などの
無断複製、転載を禁じます